

基礎分野

(社 会 学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	太田 匡洋				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	あらゆる職業的行為は、近代社会という特定の文脈のもとで成立するものである。したがって、医療の営みもまた、社会的な枠組みに規定されたものである以上、近代社会に対する理解が、よりよい医療の実現にとって重要な条件となる。そこで本授業では、社会学の物の考え方を簡単に概観した後、社会学の各トピックを横断的に扱うことで、社会学の問題意識や考え方を、身の回りの事象を捉えて理解する参考とし、職業人としての自らの判断に役立てられるようになることを目指す。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	社会学で用いられる諸概念の内容を説明することができる。
目標 2	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象を分析して説明することができる。
目標 3	社会学の諸概念をもちいて、身近な現象に対する自身の判断を説明することができる。
目標 4	
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70				
平常点	15	算出方法	毎回のミニペーパー提出による	算出方法	
出席点	15	算出方法	1 回の欠席ごとに 1 点減点する	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	8 / 2 9				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	社会学の前提(1) —— 「社会」とはなにか	
2	社会学の前提(2) —— 「行為」とはなにか	
3	社会学の前提(3) —— 「社会学」の役割とは何か	
4	家族の社会学 —— 親密圏と公共圏	
5	教育の社会学 —— 「学校化」の問題	
6	職業・労働の社会学 —— 階級・労働・マクドナルト化	
7	ジェンダーの社会学 —— 社会的性別・性的役割	
8	民族・エスニシティの社会学 —— エスニシティ・人種・移民	
9	メディアの社会学 —— 情報化社会の問題	
10	犯罪の社会学 —— 犯罪・逸脱・ラベリング理論	
11	都市の社会学 —— ゲマインシャフトとゲゼルシャフト	
12	グローバリゼーションの社会学 —— ナショナリズム・想像の共同体	
13	宗教の社会学 —— 聖と俗・市民宗教	
14	医療の社会学 —— 病人役割・医療化	
15	まとめ —— 「社会学」の役割をふりかえる	
その他の事項		
授業プリントを毎回配布する予定です。		

基礎分野

(倫理学)シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	後 期
単 位 数	2	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	太田 匡洋				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	人間のあらゆる行為は、人と人との関係のもとで初めて成立している。とりわけ、医療の営みにおいては、「人と人との関係」という契機が、重要な役割を果たしている。それゆえ、倫理学についてその知見を有することは、よりよい医療とは何かを理解し実践するための重要な条件となる。そこで本授業では、倫理学の考え方（理論倫理学）を横断的に学ぶとともに、日常生活とも関係の深い応用倫理学のトピックを概観することで、倫理学の問題意識や考え方を、身の回りの事象を理解するための材料とし、職業人としての自らの判断や行為に役立てられるようになることを目指す。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標1	倫理学で用いられる考え方および諸概念の内容を説明することができる。
目標2	倫理学の考え方や諸概念をもちいて、身近な出来事を分析して説明することができる。
目標3	倫理学の考え方や諸概念をもちいて、身近な出来事に対する自身の価値判断を説明することができる。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	70			
平常点	15	算出方法	毎回のミニペーパー提出による	算出方法
出席点	15	算出方法	1 回の欠席ごとに 1 点減点する	算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日	1 2 / 1 9			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容		
回数	内容	備考
1	倫理学とは何か ―― なぜ倫理学が必要なのか	
2	相対主義と主観主義の問題 ―― 「道徳は人それぞれ」なのか	
3	利己主義の問題 ―― 「人間は生まれつき利己的」なのか	
4	倫理学理論①：功利主義 ―― 「幸福の最大化」はベストな選択なのか	
5	倫理学理論②：義務論 ―― 「正義はなされよ、たとえ世界が減ぼうとも」	
6	倫理学理論③：徳倫理学 ―― 「道徳的な性格」とはなにか	
7	道徳心理学 ―― 道徳と発達段階	
8	ケアの倫理 ―― 寄り添う関係	
9	配分的正義の問題 ―― 有限な資源をいかにして配分するのか	
10	環境倫理学 ―― 自然と人の関係	
11	動物倫理学 ―― 肉食はなぜ悪なのか	
12	生命倫理学 ―― 「健康のためなら死んでもいい」	
13	宗教倫理学 ―― 「私が何ををしたというのか」	
14	悪の問題 ―― なぜタギーが死ななければならないのか	
	後期期末試験	
15	倫理学の役割はなにか？	
その他の事項		
授業プリントを毎回配布する予定です。		

基礎分野

(生物学) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校

2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	3 0	実施時間数	3 0
担当教員	益田 敦子				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	生物学とは、生物がどのようなしくみで生命活動を営んでいるかを探求する学問であるが、本講義では、主に生物の体がどのような物質でできているか、また生物の基本単位である細胞の各細胞小器官の働きを学び、さらに原核生物、真核生物、ウイルスの違いについて学ぶことにより生物の基礎知識を身につける。これらの基礎知識は医療系学生が主に生理学、解剖学を学ぶ際の理解の助けとなることが期待される。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	生物の特徴について説明できる。
目標 2	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）それぞれの構造や性質について説明できる。
目標 3	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）、それぞれの生体内における働きを説明できる。
目標 4	細胞膜の構造について説明できる。
目標 5	細胞膜における物質輸送について説明できる。
目標 6	細胞小器官について、それぞれの形態の特徴と機能を説明できる。
目標 7	原核生物と真核生物の違いを説明できる。
目標 8	細菌の構造について説明できる。
目標 9	ウイルスの構造と特徴について説明できる。
目標 10	

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	85%			
平常点	15%	算出方法	授業態度により判定	算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日	7 / 2 0			

★追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス、生物の特徴、トピック（iPS細胞の臨床応用について）	
2	生体を構成する物質全体について、水の性質と生体内における働き	
3	タンパク質の構造と性質	
4	タンパク質の生体内における働き	
5	糖質（単糖類、二糖類、多糖類）の構造と性質	
6	糖質の生体内における働き、脂質（単純脂質）の構造と性質	
7	脂質（複合脂質、誘導脂質）の構造と性質	
8	脂質の生体内における働き、無機質の生体内における働き	
9	細胞の発見と細胞説、細胞膜の構造と特徴	
10	細胞膜における物質輸送の方法	
11	核、リボソーム、粗面小胞体の構造と働き	
12	滑面小胞体、ゴルジ装置の構造と働き、細胞内における物質の流れ	
13	リソソーム、ミトコンドリア、中心体、葉緑体の構造と働き、 原核生物と真核生物	
14	試験解説、細菌の構造、ラン藻の構造	
15	ウイルスの構造と特徴、細胞の進化、ウイルスに関するトピック	
その他の事項		
・板書したものは各自ノートをとること ・生物学は専門科目ではないが、生理学、解剖学の理解の助けになるので、しっかり勉強して下さい。 ・配布資料は毎回持ってくることを忘れず。		
推薦図書	絵でわかる細胞の世界	黒谷明美著 講談社サイエンティフィク 2001 年発行
	医学を学ぶための生物学	谷口直之、米田悦啓編集 南江堂 2004 年改訂第 2 版発行

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	3	必要時間数	7 2	実施時間数	7 2
担当教員	下宮 啓佑				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業においては医学の基礎となる解剖学のうち、前述の「骨・筋・関節」といった運動器について重点的に学び、 国家試験に対応できる学力はもちろんのこと、他科目及び臨床・実技授業においても土台となる運動器の知識を修得する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、解剖学 第2版、医歯薬出版株式会社、2 0 0 6				

具体的な到達目標	
目標1	骨の構造と特徴について説明することができる。
目標2	筋の構造、起始・停止・作用・支配神経について説明することができる。
目標3	関節の構造と働きについて説明がすることができる。
目標4	
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70%				
平常点	30%	算出方法	小テスト（30 点）×1 回		算出方法
出席点		算出方法			算出方法
その他		算出方法			算出方法
試験日	9/4				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	シラバス及び科目の概要について説明を受ける。	
2	人体の区分・切断面及びそれらを示す際の解剖学的用語について学ぶ。	
3	骨の形状及び連結、関節の種類について学ぶ。	
4	骨組織、血液とリンパの構造・特徴について学ぶ。	
5	骨の形状についての用語・骨の部分名称・連結について学ぶ。	
6	筋組織の構造、特徴について学ぶ。	
7	脊柱の構成や機能、椎骨の基本形態・連結について学ぶ。	
8	各部の椎骨（頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、尾骨）の構造・特徴について学ぶ。	
9	胸骨、鎖骨の構造・特徴について学ぶ。 胸郭の全体像及び運動について学ぶ。	
10	上肢帯の骨（鎖骨、肩甲骨）、自由上肢の骨（上腕骨）の構造、特徴について学ぶ。	
11	自由上肢の骨（橈骨、尺骨、手の骨）の構造・特徴について学ぶ。	
12	下肢帯の骨（寛骨）、自由下肢の骨（大腿骨、膝蓋骨）の構造・特徴について学ぶ。	
13	自由下肢の骨（脛骨、腓骨、足の骨）の構造・特徴について学ぶ。	
14	脳頭蓋を構成する骨（前頭骨、頭頂骨、後頭骨、側頭骨、蝶形骨、篩骨）の構造・特徴について学ぶ。	
15	顔面頭蓋を構成する骨（鼻骨、涙骨、頬骨、上顎骨、下顎骨、舌骨）の構造・特徴について学ぶ。	
16	上肢の関節（胸鎖関節、肩鎖関節、肩関節）の構造と働きについて学ぶ。	
17	上肢の関節（肘関節、手関節、手内部・指の関節）の構造と働きについて学ぶ。	
18	下肢の関節（股関節、膝関節）の構造と働きについて学ぶ。	
19	下肢の関節（足関節、足内部・趾の関節）の構造と働きについて学ぶ。	
20	小テスト（予定）	
21	筋の構造・神経・作用と運動について学ぶ。	
22	上肢帯の筋（棘上筋、棘下筋、小円筋、三角筋、肩甲下筋、大円筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
23	上腕の筋（烏口腕筋、上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
24	前腕の筋（円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、浅指屈筋、尺側手根屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋、腕橈骨筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、小指伸筋、尺側手根伸筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
25	前腕の筋（回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋）、手内筋（短掌筋、小指外転筋、短小指屈筋、小指対立筋、虫様筋、掌側骨間筋、背側骨間筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	
26	下肢帯の筋（腸腰筋、大・中・殿筋、大腿筋膜張筋、梨状筋、内閉鎖筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。	

27	大腿の筋（縫工筋、大腿四頭筋、膝関節筋、恥骨筋、長内転筋、短内転筋、大内転筋、薄筋、外閉鎖筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
28	大腿の筋（大腿二頭筋、半腱様筋、半膜様筋）、下腿の筋（前脛骨筋、長母趾伸筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長腓骨筋、短腓骨筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
29	下腿の筋（下腿三頭筋、足底筋、膝窩筋、後脛骨筋、長趾屈筋、長母趾屈筋）、足内筋（短母趾伸筋、短趾伸筋、母趾外転筋、短母趾屈筋、母指内転筋、小趾外転筋、短小趾屈筋、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋、底側骨間筋、背側骨間筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
30	胸筋（大胸筋、小胸筋、鎖骨下筋、前鋸筋、外肋間筋、内肋間筋、最内肋間筋、肋下筋、胸横筋、肋骨拳筋、横隔膜）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
31	腹筋（腹直筋、錐体筋、外腹斜筋、内腹斜筋、腹横筋、腰方形筋、）、会陰筋の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
32	背筋（僧帽筋、広背筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、上後鋸筋、下後挙筋、板状筋、脊柱起立筋、横突棘筋、小後頭直筋、大後頭直筋、上頭斜筋、下頭斜筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
33	顔面部の筋（前頭筋・眼輪筋・鼻筋・頬筋・口輪筋・広頸筋・咀嚼筋など）の概要について学ぶ。
34	頸部の筋（広頸筋、胸鎖乳突筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群、斜角筋、椎前筋、項部の筋）の起始、停止、走行、作用、支配神経について学ぶ。
35	眼窩部、鼻部、顎下三角、頸動脈三角、筋三角、後頸三角について、その構成や通過物、周囲の器官等を学ぶ。
36	筋裂孔、血管裂孔、大腿三角、内転筋管、大・小坐骨孔、膝窩、下腿の筋区画について、その構成や通過物、周囲の器官等を学ぶ。

その他の事項

--

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	7 2	実施時間数	7 2
担当教員	奥村 清和				
授業形態	講 義	教 室	基礎医学実習室		
授業目的	基礎医学である生理学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できる。				
教科書	東洋療法学校協会編、生理学 第3版、医歯薬出版株式会社、2014年				

具体的な到達目標	
目標1	人体各部の機能を習得する
目標2	習得した各系統をつなぎ合わせてより理解を深める
目標3	他の科目や臨床に応用できるようにする

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	9 / 3	2 / 18	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	第1章 生理学の基礎、整理機能、細胞膜	
2	細胞質、核	
3	物質代謝、体液	
4	体液、物質移動	
5	物質移動、第2章 循環、赤血球	
6	血球、血漿	
7	止血、血液型	
8	循環の概要、心臓	
9	心筋の特性	
10	心電図、血管の構造と働き	
11	血圧、循環調節	
12	循環調節	
13	特殊な部位の循環、第3章 呼吸、呼吸器系の構造と機能	
14	換気とガス交換	
15	呼吸運動とその調節	
16	呼吸の反射性調節	
17	呼吸の異常、第4章 消化と吸収、消化器系の構造と機能	
18	前期末試験 答え合わせと解説	
19	消化管の運動	
20	消化液	
21	消化液、消化管ホルモン	
22	吸収	
23	肝臓の働き、摂食の調節	
24	第6章 体温、体温調節、産熱	
25	産熱、放熱	
26	発汗とその調節、体温調節の障害	
27	第7章 排泄、腎臓の働き	
28	尿生成	
29	尿生成	
30	腎臓と体液の調節	
31	蓄尿と排尿	
32	復習	
33	復習	
34	復習	

35 復習

36 後期末試験 答え合わせと解説

その他の事項

所定の教科書を使用してその章の順にしたがって授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらってそれに対して説明、解釈を加えていきます。また、必要に応じて自作のスライドをみてもらいながらの説明もあります。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	7 2	実施時間数	7 2
担当教員	森 一也				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本科目では人間が生命活動を行う上でのシステムを学習する生理学のうち、「代謝・神経・内分泌・生殖」の項目を重点的に学習する。				
	国家試験に対応できる学力はもちろんのこと、他科目や臨床現場で病態等を自身で考えることができる礎を築けるよう知識を学習する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、生理学 第3版、医歯薬出版株式会社、2014年				

具体的な到達目標	
目標1	各栄養素の概要および代謝の反応経路について説明することができる。
目標2	神経線維の興奮伝導の仕組みについて、構造の差やイオンバランスの変化を交えて説明することができる。
目標3	神経線維の興奮伝導の特徴的な仕組みを説明することができる。
目標4	シナプス伝達の特徴的な仕組みを説明することができる。
目標5	脊髄の構造を説明できるとともに、脊髄内情報伝導路について説明することができる。
目標6	脳の種類とそれらの機能について、説明することができる。
目標7	ホルモンの分泌調節について、階層的支配やフィードバック機構を交えて説明することができる。
目標8	各部位から分泌されるホルモンとその働きについて説明することができる。
目標9	精子および卵子の形成の方法と関与するホルモンについて説明することができる。
目標10	女性の性周期について構造的変化とそれらに関与するホルモンを交えて説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	9/2	2/17	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス 三大栄養素と代謝（エネルギー代謝も含む）の概要について学習する。	
2	代謝（エネルギー代謝も含む）の各論について学習する。 糖質の種類について学習する。	
3	糖質の代謝反応経路について学習する。 脂質の種類について学習する。	
4	脂質の働きについて学習する。 脂質の代謝反応経路について学習する。	
5	タンパク質の種類と働きについて学習する。	
6	タンパク質の代謝経路について学習する。 ビタミンの概要および種類について学習する。	
7	無機質の概要について学習する。 過去の国家試験問題を含めた関連問題を解き、代謝を総合的かつ包括的に学習する。	
8	神経の総論とニューロンの構造について学習する。	
9	ニューロンを支持する細胞・軸索輸送・変性と再生について学習する。	
	神経の興奮伝導・伝達の違いについて学習する。	
10	細胞内外のイオンバランスについて学習する。 神経の静止電位・活動電位について学習する。	
11	神経の興奮伝導（特徴・跳躍伝導・伝導速度）について学習する。	
12	神経線維の分類について学習する。 興奮伝達およびシナプスの構造と働きについて学習する。	
13	シナプス伝達の特徴について学習する。	
14	神経伝達物質およびそのレセプターの種類と反応方法について学習する。	
15	中枢神経系の分類とその機能について総論的に学習する。	
16	反射の意義・機能について学習する。 脊髄の構造とベルマジャンディの法則について学習する。	
17	脊髄内伝導路の種類とその経路について学習する。 脳幹の種類とその機能について学習する。	
18	視床と視床下部の構造と機能について学習する。	
19	大脳に含まれる種類と機能について学習する。	
20	大脳新皮質の存在意義、種類および機能について学習する。	
21	脳波の種類を学習するとともに、脳波の計測意義について学習する。 脳脊髄液の存在意義とその流れについて学習する。	
22	末梢神経の分類について学習する。 脳神経の種類と機能について学習する。（脳神経の詳細は2年次に行います）	

23	自律神経系の概要について学習し、それらの解剖学的な構造を学習する。
24	自律神経調節の特徴や、それらに係る伝導物質やレセプターの種類を学習する。
25	自律神経の反射について学習する。
26	過去の国家試験問題を含めた関連問題を解き、神経系を総合的かつ包括的に学習する。
27	内分泌の特徴（化学的性質、作用機序、階層的支配、フィードバック機構）を学習する。
28	視床下部および下垂体から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
29	甲状腺および副甲状腺から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
30	膵臓および副腎髄質から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
31	副腎皮質および精巣から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
32	卵巣およびその他から分泌されるホルモン種とその機能について学習する。
33	男性生殖器および女性生殖器の構造と性差の特徴を学習する。
34	女性の性周期について学習する。 妊娠と出産について、受精から分娩までを経時的に学習する。
35	成長の過程を経時的変化の観点から学習する。 各部位や各臓器の成長を学習する。 加齢に伴う生理的変化について学習する。
36	過去の国家試験問題を含めた関連問題を解き、内分泌系と生殖について総合的かつ包括的に学習する。

その他の事項

さらなる学習への理解を深めたい方は、「標準生理学 第8版 医学書院 2014年」を参考とすることをお勧めします。

専 門 分 野

(経絡経穴概論) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4 単位	必要時間数	80 時間	実施時間数	80 時間
担当教員	高橋佑輔				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	経絡経穴は臨床において、体内の情報を映し出すものである。治療家は、それらの情報を触覚や視覚を通じて、体内の情報を把握する。また、経絡経穴を刺激することにより、体内に流れる気や穴を調節し、バランスを整えることができる。 十四経脈と、各経脈に所属する経穴とその部位を理解することは、各経穴下にある体内の臓器の位置や筋肉・動脈・神経の位置を把握することに繋がる。つまり、これらを学習することは、安全で効果的な治療を行うために必要不可欠である。そのため、本授業では経絡経穴の概念と、経穴部位に関わる筋肉・動脈・神経の内容を学習する。				
教 科 書	新版 経絡経穴概論（第2版）教科書執筆小委員会著 医道の日本社 2013				

具体的な到達目標	
目標 1	正経十二経脈の流れる方向性を理解する。
目標 2	奇形八脈の流れる方向性を理解する。
目標 3	各経脈に所属する経穴名、位置、要穴を理解する。
目標 4	国家試験に出題される内容を理解することができる。
目標 5	
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80%		80%		
平常点	20%	算出方法	20%	算出方法	その他の事項に記載
出席点	0%		0%	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	9/11		2/19		

※追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の実務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション、シラバス配布と説明、経絡の概要 経絡・経穴が誕生するまでの話から、経絡経穴というものの概念を学ぶ	
2	経穴の概要 腧穴、経穴とは何かを知り、経穴の部位を決定するための骨度法・同心寸法を学ぶ。 また、鍼や灸が禁止されている部位を知る。	
3	督脈Ⅰ（督脈の流注、所属経穴名・経穴部位を学ぶ）	督脈の復習
4	督脈Ⅱ（督脈の流注、所属経穴名・経穴部位を学ぶ）	督脈の復習
5	督脈小テスト、任脈Ⅰ（任脈の流注、所属経穴名・経穴部位を学ぶ）	任脈の復習
6	任脈Ⅱ（任脈の流注、所属経穴名・経穴部位を学ぶ）	任脈の復習
7	任脈小テスト、臓腑・経絡の概要 （正経十二経脈を学ぶにあたり、臓腑の概念を学ぶ） （正経十二経脈の流注、五要穴・五行穴を学ぶ）	臓腑、要穴、五行穴の 復習
8	肺経、大腸経Ⅰ（肺経、大腸経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	肺、大腸経の復習
9	肺経小テスト、大腸経Ⅱ（大腸経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	大腸経の復習
10	大腸経小テスト、胃経Ⅰ（胃経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胃経の復習
11	胃経Ⅱ（胃経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胃経の復習
12	胃経Ⅲ（胃経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胃経の復習
13	胃経小テスト、脾経Ⅰ（脾経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	脾経の復習
14	脾経Ⅱ（脾経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	脾経の復習
15	脾経小テスト、心経（心経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	心経の復習
16	心経小テスト、小腸経Ⅰ（小腸経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	小腸経の復習
17	小腸経Ⅱ（小腸経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	小腸経の復習
18	小腸経小テスト、試験前の総復習	前期試験範囲の復習
19	前期試験返却（前期試験の解説、復習をする）	前期試験範囲の復習
20	膀胱系Ⅰ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
21	膀胱系Ⅱ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
22	膀胱系Ⅲ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
23	膀胱系（前半）小テスト 膀胱系Ⅳ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
24	膀胱系Ⅴ（膀胱系の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	膀胱系の復習
25	膀胱系（後半）小テスト、腎経Ⅰ（腎経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	腎経の復習
26	腎経Ⅱ（腎経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	腎経の復習
27	腎経小テスト、心包経、三焦経Ⅰ（心包経、三焦経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	心包・三焦経の復習
28	心包経小テスト、三焦経Ⅱ（三焦経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	三焦経の復習
29	三焦経小テスト、胆経Ⅰ（胆経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胆経の復習
30	胆経Ⅱ（胆経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胆経の復習

31	胆経（前半）小テスト 胆経Ⅲ（胆経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	胆経の復習
32	胆経（後半）小テスト 肝経（肝経の流注・経穴名・経穴部位を学ぶ）	肝経の復習
33	肝経小テスト、正経十二経脈のまとめ	正経十二経脈の復習
34	奇形八脈（奇形八脈の経穴名・経穴部位を学ぶ）	奇形八脈の復習
35	寄穴・新穴Ⅰ（寄穴・新穴の経穴名・経穴部位について学ぶ）	寄穴・新穴の復習
36	寄穴・新穴Ⅱ（寄穴・新穴の経穴名・経穴部位について学ぶ）	寄穴・新穴の復習
37	経絡経穴の現代的研究（経絡現象・現代科学的研究）	現代的研究の復習
38	国家試験過去問題（国家試験の過去問題を解いてみる）	国家試験の復習
39	後期試験の返却（後期試験の解説、復習をする）	後期試験範囲の復習
40	一年間の復習（前期・後期で学んだことを復習をする）	一年間の復習

その他の事項

平常点は各経脈終了時に行う小テストの平均から算出したものを割り当てます。

経絡経穴概論では、読み方や書き方が難しい用語が多く出てきます。

小テストもあるので、毎日少しずつでも時間を作って覚えていってください。

わからないことがあれば、その都度質問してください。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	8 0
担当教員	佐藤陽子				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	はり・きゅう・あん摩・指圧は東洋医学を基礎として今日まで発展してきた。あん摩マッサージ指圧師にとって、東洋医学の基礎を知らなければ本質的な患者治療は不可能である。 本授業では、あん摩マッサージ指圧師の臨床の場において必ず必要となる東洋医学の基礎知識を学習する。				
教 科 書	教科書検討小委員会、新版 東洋医学概論、医道の日本社、２０１５年				

具体的な到達目標	
目標 1	陰陽学説・五行学説を説明することができる。
目標 2	生体物質の生理・病証を説明することができる。
目標 3	臓腑の生理・病証を説明することができる。
目標 4	八綱弁証を用い、人体の状況を判別することができる。
目標 5	病因を説明することができる。
目標 6	経脈の病証を説明することができる。
目標 7	四診から病証を判別することができる。
目標 8	東洋医学を基に、病態を説明することができる。
目標 9	身の回りの出来事と東洋医学を関係づけることができる。
目標 10	自然界での出来事や原理原則と人の身体や病気を関係づけることができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	95%		95%		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	5%	算出方法	5%	算出方法	その他の事項に記載
その他	算出方法		算出方法		
試験日	9/13		2/21		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	本授業で学ぶ内容は、臨床の場および養生を踏まえた日常の過ごし方に活用するためのものである。鍼・灸・あん摩臨床の場においてどのように活用するのか、また活用した結果どのような効果が得られるのか、という実例を踏まえ、机上の知識としてのみではなく、2年次以降の臨床に生かせる形で授業を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	4/12	ガイダンス、東洋医学の沿革、人体の見方、東洋医学的治療	
2	4/19	陰陽学説の基本内容、陰陽の相互関係	前回復習と授業内容の予習
3	4/26	五行学説の基本内容	前回復習と授業内容の予習
4	5/10	五行学説の運用	前回復習と授業内容の予習
5	5/17	人体の生体物質の関係、脈状診、舌診の説明	前回復習と授業内容の予習
6	5/24	神の作用、精の作用と病理	前回復習と授業内容の予習
7	5/31	気の種類と作用	前回復習と授業内容の予習
8	6/7	気の病理	前回復習と授業内容の予習
9	6/14	血の作用と病理	前回復習と授業内容の予習
10	6/21	血の病理、津液の作用と病理	前回復習と授業内容の予習
11	6/28	陰陽の病理、肝の生理作用	前回復習と授業内容の予習
12	7/5	肝の生理作用と病理病証	前回復習と授業内容の予習
13	7/12	肝の病証、胆の生理作用と病理病証	前回復習と授業内容の予習
14	7/19	心の作用と病理病証	前回復習と授業内容の予習
15	7/26	心の病証、小腸の生理作用と病理病証	前回復習と授業内容の予習
16	8/30	脾の作用と病理病証	前回復習と授業内容の予習
17	9/6	脾の病証、胃の生理と病理病証	前回復習と授業内容の予習
18	9/20	試験返却と解説、肺の作用と病理病証	前回復習と授業内容の予習
19	9/27	肺の病証、大腸の生理作用と病理病証	前回復習と授業内容の予習
20	10/4	腎の作用と病理病証	前回復習と授業内容の予習
21	10/18	腎の病証、膀胱の生理作用と病理病証	前回復習と授業内容の予習
22	10/25	八綱病証	前回復習と授業内容の予習
23	11/1	外感病因の分類と特徴	前回復習と授業内容の予習
24	11/8	内傷病因の分類と特徴	前回復習と授業内容の予習
25	11/15	是動病と所生病の違い、十二経脈の病証	前回復習と授業内容の予習
26	11/22	十二経脈の病証	前回復習と授業内容の予習
27	11/29	奇経八脈の病証	前回復習と授業内容の予習
28	12/6	四診の概要、望診の具体的内容	前回復習と授業内容の予習
29	12/13	舌診	前回復習と授業内容の予習
30	12/20	聞診の具体的内容	前回復習と授業内容の予習
31	1/10	問診の進め方	前回復習と授業内容の予習
32	1/17	基本的問診事項である寒熱、飲食、睡眠、二便、情志について	前回復習と授業内容の予習
33	1/24	生活環境、身体各部の症状、汗、疼痛について	前回復習と授業内容の予習
34	1/31	女性に対する問診事項、既往歴、社会歴について	前回復習と授業内容の予習

35	2/7	切診の概要、腹診について	前回復習と授業内容の予習
36	2/14	切経、脈診の方法について	前回復習と授業内容の予習
37	2/28	試験返却と解説、脈状診について	前回復習と授業内容の予習
38	3/6	脈状診、比較脈診について	前回復習と授業内容の予習
39	3/13	東洋医学の歴史	前回復習と授業内容の予習
40	3/13	東洋医学の歴史と主要古典の概要	前回復習と授業内容の予習

その他の事項

- 1 回の欠課で 1 点減点。
2 回の遅刻および早退で 1 点減点。

専 門 分 野

(あん摩実技Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 4
担当教員	松尾 卓				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	「あん摩」はその適応の広さ、汎用性の高さから、数あるあん摩マッサージ指圧等の施術の中でも臨床現場において用いられることが多い施術法である。各種疾病や身体状況に応じて、様々な手技・方法を用いるが、そのほとんどは基本手技（軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手）の組み合わせやその応用から成り立っており、基本手技の重要性については疑う余地もない。また、それら基本手技を修得するための確実な方法は反復練習であると考え。 そのため、本授業では肢位毎（坐位・側臥位・腹臥位・仰臥位）に各部位（肩背部・頸部・腰殿部・下肢部）への基本・基礎的なあん摩施術を反復して実践し、あん摩施術の一連の流れの把握及び基本手技の修得を目指すものとする。				
教 科 書	教科書は指定しない 手拭い（初期購入品以外の物も可とする）と枕に引くハンカチは毎回必ず持参すること				

具体的な到達目標	
目標1	あん摩施術の一連の流れを実施することができる。
目標2	施術面に対してしっかりと密着した軽擦法を行うことができる。
目標3	手首を柔軟に用いた揉捏を行うことができる。
目標4	素早く軽やかな叩打法を行うことができる。
目標5	患者役の呼吸・感受性に合わせた圧迫法を行うことができる。
目標6	各関節のおおよその可動範囲を理解し、安全な範囲の中で運動法を行うことができる。
目標7	適切な姿勢・手の形で各種曲手を行うことができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	70%		70%	
平常点	算出方法		算出方法	
出席点	30%	算出方法 1回毎に欠席-2点、遅刻-1点	30%	算出方法 1回毎に欠席-2点、遅刻-1点
その他	算出方法		算出方法	
試験日	9/6（金）、9/13（金）		12/13（金）、12/20（金）	

※追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて2年間の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手といったあん摩施術における基本的な手技を中心に実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	シラバス説明及びあん摩施術の概要、手指各部の名称及び上手・下手等の用語の学習	
2	あん摩の基本手技の概要・目的・実施方法についての学習	
3	坐位における肩背部へのあん摩施術の練習	
4	前回内容（坐位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
5	坐位における頸部へのあん摩施術の練習	
6	前回内容（坐位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
7	坐位における上肢部へのあん摩施術の練習	
8	前回内容（坐位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
9	側臥位における肩背部へのあん摩施術の練習	
10	前回内容（側臥位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
11	側臥位における頸部へのあん摩施術の練習	
12	前回内容（側臥位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
13	側臥位における上肢部へのあん摩施術の練習	
14	前回内容（側臥位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
15	側臥位における腰殿部へのあん摩施術の練習	
16	前回内容（側臥位における腰殿部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
17	前期実技試験、前期学習内容の復習	
18	前期実技試験、前期学習内容の復習	
19	側臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
20	前回内容（側臥位における下肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
21	腹臥位における頸肩部へのあん摩施術の練習	
22	腹臥位における背腰部へのあん摩施術の練習	
23	仰臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
24	坐位における頭部へのあん摩施術の練習	
25	坐位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習	
26	側臥位における肩背部・頸部・上肢部へのあん摩施術の練習	
27	側臥位における腰殿部・下肢部へのあん摩施術の練習	
28	側臥位におけるあん摩施術の通し練習	
29	腹臥位におけるあん摩の通し練習	
30	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
31	後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
32	全身のあん摩施術の総復習	

その他の事項

通年であん摩の基礎実技を学んでいきますが、基本的に、授業内の時間だけでは施術できるようにはなりません。

授業外の放課後練習や自宅練習を行い、技術の研鑽に努めて下さい。

専 門 分 野 (マッサージ実技Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 4
担当教員	佐藤陽子				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	マッサージは術者の手指をもって生体の皮膚に直接、主として求心性の手技により血液、リンパ液の循環を改善させ、生体の変調を調え健康を保ち増進させる施術である。求心性の手技を強弱の刺激として生体に加えることにより、生体に多種多様の反応が期待できる。様々な状況に対して施されるマッサージ施術は、基本手技（軽擦法・強擦法・揉捏法・叩打法・振せん法・圧迫法）を組み合わせで成り立っており、基本手技の習得は不可欠である。本授業では、身体各部位に対する基本手技を繰り返し練習することで、マッサージの基本手技を習得することを目的とする。				
教 科 書	教科書は指定しない、手ぬぐい、枕用のタオル、タルク				

具体的な到達目標	
目標1	求心性に行う意味を説明できる。
目標2	関節を超えて施術をする意味を説明できる。
目標3	患者の皮膚に術者の手を密着させた軽擦法ができる
目標4	手関節の柔軟性を生かした揉捏法ができる。
目標5	末梢からのリンパ液、静脈血の還流を促進するための基本手技ができる。
目標6	揉捏法と軽擦法の混合手技である強擦法ができる。
目標7	各基本手技をスムーズにできる。
目標8	リズムカルでスムーズな叩打法ができる。
目標9	体を使って施術ができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70%		70%		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	30%	算出方法	その他の事項に記載	30%	算出方法
その他	算出方法		算出方法		
試験日	9/12, 9/19		12/5, 12/12		

※追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	臨床の場で必要となるマッサージの基本手技および、相手への配慮を踏まえて実技を行う。		

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス、マッサージの目的及び基本手技の説明	
2	手指部、手部へのマッサージ施術の練習	
3	手指部、手部へのマッサージ施術の繰り返し練習	
4	手関節へのマッサージ施術の練習	
5	手関節へのマッサージ施術の繰り返し練習	
6	前腕部へのマッサージ施術	
7	前腕部へのマッサージ施術の繰り返し練習	
8	肘関節へのマッサージ施術	
9	肘関節へのマッサージ施術の繰り返し練習	
10	上腕部へのマッサージ施術	
11	上腕部へのマッサージ施術の繰り返し練習	
12	肩関節へのマッサージ施術	
13	肩関節へのマッサージ施術の繰り返し練習	
14	上肢部へのマッサージ施術の通し練習（テキストを見ずにスムーズに行えること）	
15	足指・足部へのマッサージ施術	
16	足指・足部へのマッサージ施術の繰り返し練習	
17	前期実技試験、前期授業内容の復習	
18	前期実技試験、前期授業内容の復習	
19	足関節部へのマッサージ施術	
20	足関節部へのマッサージ施術の繰り返し練習	
21	下腿部へのマッサージ施術	
22	下腿部へのマッサージ施術の繰り返し練習	
23	膝関節部へのマッサージ施術	
24	膝関節部へのマッサージ施術の繰り返し練習	
25	大腿部へのマッサージ施術	
26	大腿部へのマッサージ施術の繰り返し練習	
27	下肢部へのマッサージ施術の通し練習（テキストを見ずにスムーズに行えること）	
28	下肢部へのマッサージ施術の通し練習（テキストを見ずにスムーズに行えること）	
29	後期実技試験、後期授業内容の復習	
30	後期実技試験、後期授業内容の復習	
31	背腰部へのマッサージ施術	
32	背腰部へのマッサージ施術の繰り返し練習	
その他の事項		
欠課 1 回毎に 2 点減点。 遅刻および早退 1 回毎に 1 点減点		

専 門 分 野

(指圧実技Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 4
担当教員	小濱 公次				
授業形態	実 習	教 室	第3実技室		
授業目的	配布プリントを教材として用いる。解説はデモンストレーションを主とし、必要に応じて教材以外の資料を配付したり、板書等交えながら行う。特に安全面に注意しながら、効率的な体の使い方（体傾荷重）に主眼を置いた指導を行う。 指圧は治療に適した療法である反面、必ず危険を伴う。まずは安全に行えるようになること。その上でより治療的に行えるようになるための基礎（基本）を反復練習する習慣を身に付ける。				
教 科 書	教科書は指定しない				

具体的な到達目標	
目標 1	指圧に関する基礎知識を説明できる。
目標 2	安全に操作する方法を説明できる。
目標 3	基本操作を手順通り行える。
目標 4	基本操作を安全に行える。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	6 0 %（実技試験 40%、筆記試験 20%）		6 0 %（実技試験のみ）		
平常点	1 0 %	算出方法 その他の事項に記載	1 0 %	算出方法 その他の事項に記載	
出席点	3 0 %	算出方法 1 欠席毎に 2 点減点	3 0 %	算出方法 1 欠席毎に 2 点減点	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	実技試験：7/23、7/30 筆記試験：8/27		実技試験：11/19、11/26		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸接骨院で2年、自宅開業で17年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	導入 指圧に関する基礎知識 1 あま指の相違点、指圧法の成り立ち、押圧操作の三原則、方向・角度・深度、など	
2	導入 指圧に関する基礎知識 2 押圧の分析（基本図形）、手掌の名称、背部の名称など	
3	伏臥位（前半） 姿勢（術者・受者の姿勢、立ち位置）、脊柱検査	
4	“ 背部の掌圧（遠位側・近位側・脊柱）	
5	“ 一側線の母指圧	
6	“ 二側線の母指圧	
7	“ 三側線の母指圧	
8	“ 肩甲骨内側縁、腰側線	
9	“ 仙骨挟み込み	
10	“ 下肢操作（正中ライン：大腿の掌圧、膝の操作） 固定に関して	
11	“ “ （正中ライン：委中・アキレスの1点圧、足裏の操作）	
12	“ “ （内側ライン：内股の掌圧、アキレスの手根圧）	
13	“ “ （外側ライン：大腿～下腿外側の掌圧）	
14	伏臥位（前半）の総復習 特に試験範囲中心	
15	前期実技試験 試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習	
16	前期実技試験 試験対象者以外は、伏臥位（前半）の反復練習	
17	前期筆記試験 筆記試験 60 分、実技練習 30 分	
18	試験後の総評	
19	前期試験フィードバック	
20	伏臥位（後半） 肩上部操作 4 ライン（T6, 7～肩甲骨上角、肩上部、棘上部、1 側線上部）	
21	“ 上肢操作（腋窩押圧、上腕・前腕の掌圧）	
22	“ 肩甲骨内側縁の母指圧	
23	“ 一・二・三側線（治療的）、腰側線	
24	“ 仙骨孔の母指圧（後仙骨孔の指標）	
25	“ 下肢操作（大腿～下腿の掌圧、腓骨の巻き込み、足関節・膝関節回転法、 膝関節屈曲、前脛骨筋の手根圧）	
26	“ “ （大腿伸展法、腰部伸展法）	
27	伏臥位（後半）の総復習 特に試験範中心	
28	後期実技試験 試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習	
29	後期実技試験 試験対象者以外は、伏臥位（後半）の反復練習	
30	試験後の総評	
31	後期試験フィードバック	
32	床での操作	

その他の事項

平常点対象事項 1回注意ごとに1点減点とする

○実習着・上履き

- ・清潔であること
- ・規定のものを着用

○身だしなみ

- ・実習着のボタン、袖、裾
- ・上履きの踵
- ・腕時計、装飾品（指輪、ピアス、リストバンド等）
- ・マニキュア、過度の化粧・香水
- ・髪色、髪型（長髪は肩にかからないように束ねる）
- ・ひげ（見苦しくないよう整える）
- ・爪（衛生的に短く切る）

○忘れ物

○授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻

専 門 分 野

(医 療 の 歴 史) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2019 年度シラバス

授業概要					
学 科	選 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単位	必要時間数	30 時間	実施時間数	30 時間
担当教員	高橋佑輔				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	医療の歴史はとても古く、その時代、国、地域によって様々な特色がある。				
	本授業を受けることで鍼灸の歴史だけでなく、医療人として知っておくべき医療全体の歴史を理解することができるようになる。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 医療概論 医歯薬出版株式会社（1991）				

具体的な到達目標	
目標 1	古代の医療の歴史を理解することができる
目標 2	西洋の医療の歴史について理解することができる
目標 3	東洋の医療の歴史について理解することができる
目標 4	日本の医療の歴史について理解することができる

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	筆記試験（100 点満点）を実施、得点の 60%を 持ち点とする				
平常点	10%	算出方法	発表して 10 点。発表をしな い場合マイナス 45 点	算出方法	
出席点	30%	算出方法	定期試験以外の授業の出席 で 1 回につき 2 点	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	9/2				

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☒	
教員の実務経験			
実務経験をいかした 教育内容			

授業の内容		
回数	内容	備考
1	ガイダンス（ガイダンス、医療・医学とはなにかを知る）	
2	古代医療（神話と医療について学ぶ）	
3	古代医療（エジプト医学、バビロニア医学、新大陸の医学、ギリシア医学からローマの医学までを学ぶ）	
4	西洋医療史（キリストの医学、ルネサンス医学までを学ぶ）	
5	西洋医療史（近代医学の芽生えから 20 世紀の医学までを学ぶ）	
6	東洋医療史（古代インド医学・中国の医学を学ぶ）	
7	日本医療史Ⅰ（江戸時代までの医療について学ぶ）	
8	日本医療史Ⅱ（江戸時代以降の医療について学ぶ）	
9	日本の現代の医療制度	
10	日本昔話と医療（日本昔話と医療について学ぶ）	
11	京都医療史（京都の医療の歴史について学ぶ。祇園祭と医療の関係性について学ぶ。）	
12	生徒発表（各自興味のある医療の歴史について 1 人 15～20 分程度の発表を行う）	
13	生徒発表（各自興味のある医療の歴史について 1 人 15～20 分程度の発表を行う）	
14	生徒発表（各自興味のある医療の歴史について 1 人 15～20 分程度の発表を行う）	
15	定期試験返却、前期のまとめ（定期試験返却、前期のまとめ）	
その他の事項		
教科書とスライドを使って授業をしていきます。 授業の後半にある発表がとても大事ですので、しっかり調べて発表してください。		